

## 解答.

$\Gamma$  上の相異なる  $n+1$  個の点  $X_1, X_2, \dots, X_{n+1}$  および相異なる  $n+1$  個の点  $Y_1, Y_2, \dots, Y_{n+1}$  を,  $i = 1, \dots, n$  について  $X_i, X_{i+1}, L_i$  および  $Y_i, Y_{i+1}, L_i$  が同一直線上にあり,  $X_1X_{n+1}, Y_1Y_{n+1}$  が  $l$  に平行でないようなものとする. このとき  $X_1X_{n+1}$  と  $Y_1Y_{n+1}$  が  $l$  上に共有点を持つことを言えばよい. 実際, 共有点を  $L_{n+1}$  とおくと条件を満たす.  $X_1 = Y_1$  のとき条件から帰納的に  $X_2 = Y_2, \dots, X_{n+1} = Y_{n+1}$  なので, このときは正しい.  $X_1 \neq Y_1$  とする. 点の取り方から帰納的に  $X_2 \neq Y_2, \dots, X_{n+1} \neq Y_{n+1}$  である.

ここで  $\Gamma$  上の 6 点  $A, B, C, A', B', C'$  に対し,  $P(A, B, C; A', B', C')$  により,  $AB'$  と  $A'B, BC'$  と  $B'C, CA'$  と  $C'A$  の交点があるという主張を表す. パスカルの定理からこの主張は正しい.

$n$  に関する帰納法で示す.  $n = 1$  のときは  $L_1$  が共有点となる.  $n$  に対して満たされているとして  $n+2$  に対して示す. 帰納法の仮定から  $X_1X_{n+1}$  と  $Y_1Y_{n+1}$  は  $l$  上で交わり, また,  $X_{n+1}X_{n+2}$  と  $Y_{n+1}Y_{n+2}$  は  $l$  上の点  $L_{n+1}$  で交わるので,  $P(X_1, Y_{n+1}, X_{n+2}; Y_1, X_{n+1}, Y_{n+2})$  から  $X_1Y_{n+2}$  と  $Y_1X_{n+2}$  も  $l$  上で交わる. さらに  $X_{n+2}X_{n+3}$  と  $Y_{n+2}Y_{n+3}$  は  $l$  上の点  $L_{n+2}$  で交わるので,  $P(X_1, X_{n+2}, Y_{n+3}; Y_1, Y_{n+2}, X_{n+3})$  から  $X_1X_{n+3}$  と  $Y_1Y_{n+3}$  も  $l$  上で交わる. よって示された. ■